

平成 21 年 10 月 2 日

各 位

会 社 名	セガサミーホールディングス株式会社
代 表 者 名	代 表 取 締 役 会 長 兼 社 長 里 見 治
	(コード番号 6460 東証第一部)
問 合 せ 先	グ ル ー プ 代 表 室 長 兼 グ ル ー プ コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 室 長 上 田 晃 一 郎
	(電話番号 03-6215-9955)

当社子会社（株式会社セガトイズ）の業績予想の修正に関するお知らせ

当社子会社である株式会社セガトイズは、平成 21 年 4 月 28 日付にて発表いたしました平成 22 年 3 月期第 2 四半期累計期間の業績予想の修正について、別添のとおり発表いたしましたのでお知らせいたします。

なお、本件による当社業績への影響は軽微であります。当社業績予想につきましては現在精査中であり、変更が生じる場合は速やかに開示いたします。

《添付資料：セガトイズ開示資料「業績予想の修正に関するお知らせ」》

以上

平成 21 年 10 月 2 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 セ ガ ト イ ズ
 代表者名 代表取締役社長 國 分 功
 (JASDAQ コード 7 8 4 2)
 問 合 せ 先 専務取締役コーポレート本部長 菅野 暁
 電 話 0 3 - 5 8 2 2 - 6 2 4 4

業績予想の修正並びに特別損失の発生に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成 21 年 4 月 28 日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

また、特別損失が発生いたしましたので、併せてお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正について

(1) 平成 22 月 3 月期第 2 四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)
 (金額の単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	9,000	20	5	△31	△1.45
今回発表予想 (B)	8,500	△260	△270	△820	△38.08
増 減 額 (B－A)	△500	△280	△275	△789	－
増 減 率 (%)	△5.6%	－	－	－	－
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	8,465	8	△13	△16	△0.77

(2) 平成 22 月 3 月期第 2 四半期累計期間個別業績予想数値の修正 (平成 21 年 4 月 1 日～平成 21 年 9 月 30 日)
 (金額の単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	8,086	45	32	△3	△0.15
今回発表予想 (B)	8,000	△65	△80	△970	△45.04
増 減 額 (B－A)	△86	△110	△112	△967	－
増 減 率 (%)	△1.1%	－	－	－	－
(ご参考) 前期第 2 四半期実績 (平成 21 年 3 月期第 2 四半期)	7,547	12	12	9	0.45

(3) 修正の理由

①連結業績予想

平成 22 年 3 月期の第 2 四半期累計期間は、海外販売につきましては好調に推移しているものの、国内販売につきましては「家あげ花火」や「夢ねこヴィーナス」などの新製品を投入し新たにファミリー市場の開拓などを図っておりますが、ビーナシリーズ等の既存玩具の販売が前年実績を大きく下回り、夢ペットシリーズ、「ジュエルペット」関連商品等の売上が当初計画を下回る見通しです。

利益面につきましては、組織改革による業務効率化や機能子会社の見直し、社内管理体制強化などの施策を図り販売費及び一般管理費の削減を行いましたが、売上高の減少による落ち込みをカバーできないと判断いたしました。

さらに、連結子会社株式会社タイヨーについても主力のラジオコントロール玩具の販売が落ち込み、売上・利益とも当初計画を大きく下回る見通しです。株式会社タイヨーの大変に厳しい経営状況を踏まえ、特別損失の項目として、たな卸資産の評価損 160 百万円、のれんの一括償却損 84 百万円、固定資産の減損損失 24 百万円等の計上を見込みます。

また、繰延税金資産の取崩により、法人税等調整額として 123 百万円の計上を見込みます。

以上の結果、第 2 四半期連結累計期間売上高 8,500 百万円（前回発表値と比較して 500 百万円の減少）、営業損失 260 百万円（前回発表値と比較して 280 百万円の減少）、経常損失 270 百万円（前回発表値と比較して 275 百万円の減少）、当期純損失 820 百万円（前回発表値と比較して 789 百万円の減少）を見込みます。

②個別業績予想

個別業績は、連結業績予想と同様の理由により、売上高 8,000 百万円（前回発表値と比較して 86 百万円の減少）、営業損失 65 百万円（前回発表値と比較して 110 百万円の減少）、経常損失 80 百万円（前回発表値と比較して 112 百万円の減少）を見込みます。

さらに、連結子会社株式会社タイヨーの業績悪化に伴う関係会社株式評価損 400 百万円、同社向けの貸付金に関わる貸倒引当金 280 百万円の計上を見込みます。

また、繰延税金資産の取崩により、法人税等調整額として 123 百万円の計上を見込みます。これにより、当期純損失 970 百万円（前回発表値と比較して 967 百万円の減少）を見込みます。

2. 特別損失の発生について

(1) 連結

連結子会社株式会社タイヨーの業績悪化に伴い、特別損失の項目として、たな卸資産の評価損 160 百万円、のれんの一括償却損 84 百万円、固定資産の減損損失 24 百万円等の計上を見込みます。

(2) 個別

連結子会社株式会社タイヨーの業績悪化に伴う関係会社株式評価損 400 百万円、同社向けの貸付金に関わる貸倒引当金 280 百万円の計上を見込みます。

通期の業績予想及び平成 22 年 3 月期末の配当予想につきましては、玩具業界における最大の商戦期である第 3 四半期の見通しおよび海外販売の動向を精査した上で、確定し次第公表いたします。

※上記の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因により予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以 上